



# 変わる! 岡山の教育

## ～学習指導要領の改訂～

**グ**ローバル化の進展、人工知能の進化などにより、子どもたちの将来は予測困難な時代になると言われており、これからの教育には、様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決したり、社会の成長につながる新たな価値を見出すことができる人材の育成が求められます。こうした状況を踏まえ、新しい学習指導要領が小学校では、平成32年(2020年)度から、中学校では平成33年(2021年)度から本格実施となります。また、高等学校の新しい学習指導要領も、平成34年(2022年)度から実施される予定です。新しい学習指導要領では、これまで学校教育で目指してきた知徳体のバランスのとれた生

きる力の育成を継続するとともに、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性の<sup>かんよう</sup>涵養を重視し、未来社会を切り開くための資質能力を育むとされています。具体的には、小中学校の道徳の教科化や、小学校英語の教科化、プログラミング教育の導入、「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)の視点から学習過程を改善すること等が示されています。県教委においても、新しい学習指導要領を踏まえた実践が確実に行われ、子どもたちが未来の創り手となる力を身に付けていくことができるよう、学校や先生方を支援していきたいと考えています。



## 変わる! [ 授業 ]

この度の学習指導要領改訂では、子どもたちが知識や技能を習得するだけでなく、習得した知識や考え方等を手段として、子ども自らが情報を収集したり、友達と課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現したりする学習に取り組み、その過程の中で学びの質を高めるような学習にしていくことが求められています。こうした学習により、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続ける力を育成することが大切です。



話し合いながら課題を解決していく授業



## 変わる! [ 英語教育 ]

今の子どもたちが大人になる時には、さらにグローバル化が進み、様々な国の人々とのコミュニケーションが不可欠になると言われており、その一端を担う英語教育が強化されます。小学校3・4年生で週に1回程度の外国語活動、5・6年生で週に2回程度の英語科の授業が行われ、「聞くこと」「話すこと」を重視しながら、高学年になると「読むこと」「書くこと」に親しむ活動も取り入れられます。中学校では、英語の授業は基本的に英語で行われ、扱う英単語数の増加など一層の充実が図られます。



小学校での英語の授業



## 変わる! [ 道徳教育 ]

道徳の時間が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられます。週1時間の授業時間は変わりませんが、教科書が導入され、思いやりや正直、規則の尊重などを子どもたちが自分のこととしてとらえ、友達との話し合いの中で考えを深めて、子どもたちの道徳性を育みます。なお、道徳科の学習状況や道徳性に関する成長の様子を個人ごとに評価し指導に生かしますが、数値で評価して他の子どもたちと比較したり、入試で活用したりすることはしないこととされています。



小学校での道徳の授業